

一般社団法人 日本疫学会 第8回定時社員総会 議事録

日時	2024(令和5)年 2月 1日 (木) 18:10-19:00
場所	びわ湖大津プリンスホテル
社員総数	233名
出席社員数	200名(内 委任状出席者:88名)
出席理事	(順不同、敬称略) 玉腰暁子(議長)、井上真奈美、関根道和、岡村智教、若井建志、神田秀幸、 栗山進一、曾根博仁、片野田耕太、尾島俊之、小橋元、井上茂、村上義孝 金子聰、福島若葉、近藤尚己、三浦克之、本庄かおり、郡山千早、有馬久富、 川崎良、後藤温、中田由夫、松尾恵太郎、三宅吉博
出席監事	横山徹爾、和田恵子

菊池宏幸事務局長より、代議員 233名のうち、出席代議員 112名、委任状提出代議員 88名で、出席者が 200名で過半数に達しており本社員総会が成立したことが報告された。また、議事録署名人として、有馬久富理事と村上義孝理事が承認された。

1. 2023年度事業について、玉腰暁子議長より下記の報告があった。

1) 学術総会の開催に関する事業 (定款第2条1項)

- 第33回日本疫学会学術総会の開催 2023年2月1日～3日(浜松) 学会長:尾島俊之 参加者:1,702名(第30回JEA疫学セミナー:505名参加)

2) 会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業 (定款第2条2項)

- 会誌 Journal of Epidemiology (JE) Vol. 32(12), Vol. 33 (1-11) の刊行 (冊子は合本で6冊発行)
- 論文受理後掲載までの期間の短縮化とアクセプト版早期公開の定常化
- JE vol. 13 の XML データを作成して、PMC に搭載
- プロモーション号を JE へ投稿の可能性がある海外の研究者に送付
- 「疫学の事典」の発刊
- 「はじめて学ぶやさしい疫学」第4版の編集

3) 調査、研究、情報の収集及び提供に関する事業 (定款第2条3項)

- ニュースレター 第61号(4/15)、第62号(10/15)の刊行
- ホームページ(日・英)、メールマガジンによる情報提供
- 「新型コロナウイルス関連情報特設サイト」の運営

- メディア連携、疫学リテラシー普及促進についての検討
 - 疫学リソース利用促進についての諸課題の検討
- 4) 人材の教育、研修に関する事業（定款第2条4項）
- プレセミナー2023 を第33回学術総会時に開催（2/1、延べ1,470名参加）
 - サマーセミナー2023 ハイブリッド開催（8/26、30名参加、うち現地参加2名）
- 5) 国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携及び交流に関する事業（定款第2条5項）
- 疫学の未来を語る若手の会（世話人代表からの報告）
 - 第34回学術総会トラベルグラントの募集・選考
 - 国際疫学会（IEA）との連携強化、日韓台シンポジウムの開催（2023/2/3）
 - 他学会との共催セミナー・シンポジウムの開催
 - ◆日本計量生物学会との共催でプレセミナー開催（2/1、第33回学術総会時）
 - ◆日本動脈硬化学会との共催で連携シンポジウム開催（7/8、第55回日本動脈硬化学会総会・学術集会）
 - 日本医学会、日本医学会連合との連携
 - 関連団体（禁煙推進学術ネットワーク、日本人類遺伝学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、社会医学系専門医協会等）との連携
- 6) 資格の認定に関する事業（定款第2条6項）
- 疫学専門家認定制度
 - ◆2022年申請の上級疫学専門家の書類審査、合格発表（12/22）、認定（4/1）
 - ◆2023年疫学専門家・上級疫学専門家の申請受付（8/1-9/26）、書類審査（10/2-12/13）、筆記試験準備（2023/2/3 実施予定@浜松）
 - 社会医学系専門医協会の更新単位付与に係る研修実施（第33回学術総会時）
- 7) 表彰に関する事業（定款第2条7項）
- 日本疫学会功労賞受賞者（敬称略）
尾島 俊之（浜松医科大学）
 - 日本疫学会奨励賞受賞者（五十音順、敬称略）
藤原 和哉（新潟大学）
村上 慶子（文部科学省、東北大学）
 - 優秀査読者（五十音順、敬称略）
安齋 達彦（東京医科歯科大学 M&D データ科学センター）
松山 祐輔（東京医科歯科大学）
山名 隼人（自治医科大学）
 - Paper of the Year（敬称略）
横川 裕大（東北大学）
- 8) その他の関連する事業（定款第2条8項）

- 多様性（ダイバーシティー）促進のための取り組みについての検討
- 9) その他
- 役員などの COI 自己申告書の収集・管理
 - 各種規程の整備
 - 名誉会員の推薦
 - 会議等に関する事項
 - 第 7 回定時社員総会（第 33 回学術総会時現地開催、2/2）
 - 第 1 回理事会（現地開催、2023/2/1）
 - 第 2 回理事会（オンライン開催、2023/5/22）
 - 第 3 回理事会（オンライン開催、2023/11/10）
2. 2023 年度決算案について、菊池宏幸事務局長より、貸借対照表および正味財産増減計算書に基づき、下記の説明があった。
- 2023 年度末における資産合計は、93,969,822 円、負債合計は、1,469,612 円である。また、指定正味財産と一般正味財産を合わせた正味財産合計は 92,500,210 円で、負債及び正味財産合計は、93,969,822 円である。
- 次の「正味財産増減計算書」では、一般正味財産増減の部における経常増減の部について、当年度の 2023 年度（2022 年 12 月 1 日～2023 年 11 月 30 日）の経常収益は、受取会費 21,400,860 円、事業収益 36,605,210 円、受取補助金等 5,216,364 円等があり、経常収益計 63,242,905 円である。一方、経常費用は、事業費 38,751,720 円、委員会活動 707,031 円、学会事務局 6,758,020 円等があり、経常費用計 49,539,333 円で、当期経常増減額は 13,703,572 円であった。経常外増減の部について、一般正味財産期末残高は、90,619,602 円であった。さらに、指定正味財産増減の部において、日本学術振興会等からの受取補助金等 4,000,013 円と一般正味財産への振替額マイナス 5,144,582 円により、指定正味財産期末残高は 1,880,608 円となり、正味財産期末残高は、92,500,210 円で、先ほどの貸借(たいしゃく)対照表の正味財産合計と一致する。
3. 2023 年度事業報告、理事の職務の遂行、計算書およびその付属明細書について、横山徹爾監事より監査報告があり、2023 年度決算書は、承認された。
4. 2024 年度事業計画について、玉腰暁子議長より下記の説明があり、理事会で承認されている旨の報告があった。
- 1) 学術総会の開催に関する事業（定款第 2 条 1 項）
- 第 34 回日本疫学会学術総会の開催（1/31～2/2、会長：三浦克之）

- プレセミナー（1/31）ほか関連行事開催
- 2) 会誌、研究文書等の企画、制作、編集、刊行に関する事業（定款第2条2項）
 - 会誌 Journal of Epidemiology Vol. 33(12)、Vol. 33（1-11）の刊行（冊子6冊発行）、Supplementの発行、ACCEPT版早期公開の定常化等
 - 「はじめて学ぶやさしい疫学」発行予定（2024/3/25）
 - 3) 調査、研究、情報の収集及び提供に関する事業（定款第2条3項）
 - ニュースレター 第63号（4/15）、第64号（10/15）の刊行
 - ホームページ（日・英）、メールマガジン（疫学会通信）による情報提供
 - メディア連携、疫学リテラシー普及促進についての検討
 - 疫学リソース利用促進についての諸課題の検討
 - 4) 人材の教育、研修に関する事業（定款第2条4項）
 - プレセミナー2024を第34回学術総会時に開催
 - 5) 国内外の国、公的機関、学術団体等との連絡、協力、支援、調整、連携及び交流に関する事業（定款第2条5項）
 - 疫学の未来を語る若手の会：第29回若手の集い
 - 第35回学術総会トラベルグラントの募集・選考
 - 他学会との共催セミナー・シンポジウムの開催、関連団体との連携
 - 6) 資格の認定に関する事業（定款第2条6項）
 - 2023年上級疫学専門家・疫学専門家の認定
2024年上級疫学専門家・疫学専門家申請の受付、審査
 - 社会医学系専門医協会の更新単位付与に係る研修実施
 - 7) 表彰に関する事業（定款第2条7項）

日本疫学会功労賞、日本疫学会奨励賞、優秀査読者、Paper of the Yearの選考
 - 8) その他の関連する事業（定款第2条8項）

多様性（ダイバーシティ）促進についての検討
 - 9) 役員などのCOI自己申告書の収集・管理
 - 10) 各種規程の整備
 - 11) 名誉会員の推薦
 - 12) 社員総会、理事会の開催
5. 2024年度予算書について、菊池宏幸事務局長より、下記の説明があり、理事会で承認されている旨の報告があった。
- 事業活動収入については、会費支払い義務のある普通会員2,660人、代議員233人として、会費収入2,155万円が見込まれ、事業収入として、会誌発行収入1,036万円、疫学専門家の申請・登録料225万円、学術総会3,079万円を見込んでいる。日本学術振興会等からの補助金等を合わせて、事業活動収入計を70,155,000円として計上す

る。一方、事業活動支出については、事業費支出として、会誌発行費 337 万円、JE 編集委員会費 1,124 万円、疫学の未来を語る若手の会 10 万円、学術総会 3,079 万円、疫学専門家認定の費用として 133 万円を計上した。また賛助会費では、日本医学会年会費 15 万円、禁煙推進学術ネットワーク連絡協議会に 10 万円、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会に 2 万円をあわせて 27 万円を計上した。さらに委員会活動では、英語版ウェブサイトの充実のための英訳の費用等の国際化推進費として 240 万円、ニュースレター作成費 20 万円、奨励賞・功労賞 7 万円、サマーセミナー実施費として 20 万円、動画作成・配信費および広報活動費の 550 万円を含み、845 万円を計上している。理事会については、会議費 5 万円、交通費 15 万円を計上した。学会事務局では、法定福利費 157 万円、人件費 760 万円、業務委託費 63 万円、会計監査費 40 万円をあわせて 1,020 万円を計上し、その他、管理費として、消費税 70 万円、会員管理システムバージョンアップにともなう選挙システム移行費用 11 万円、都民税 7 万円を計上し、事業活動支出計 69,688,500 円が見込まれ、事業活動収支差額は 466,500 円となる。

6. 新役員案について、玉腰議長より、下記の理事および監事が提案され、承認された。つづいて、新体制案も紹介された。

● 選出理事（敬称略）

玉腰 暁子（北海道大学）
有馬 久富（福岡大学）
井上 茂（東京医科大学）
井上 真奈美（国立がん研究センター）
岡村 智教（慶應義塾大学）
川崎 良（大阪大学）
後藤 温（横浜市立大学）
小橋 元（獨協医科大学）
近藤 尚己（京都大学）
関根 道和（富山大学）
曾根 博仁（新潟大学）
寶澤 篤（東北大学）
松尾 恵太郎（愛知県がんセンター研究所）
三浦 克之（滋賀医科大学）
三宅 吉博（愛媛大学）

● 指名理事（敬称略）

片野田 耕太（国立がん研究センター）

郡山 千早 (鹿児島大学)
中田 由夫 (筑波大学)
福島 若葉 (大阪公立大学)
村上 義孝 (東邦大学)

● 監事 (敬称略)

横山 徹爾 (国立保健医療科学院)
和田 恵子 (岐阜大学)

7. 第36回日本疫学会学術総会 (2026年開催) について、玉腰暁子理事長より、下記のとおり報告があった。(敬称略)

● 第36回日本疫学会学術総会会長：金子 聰 (長崎大学)

8. 庶務事項について、菊池宏幸事務局長より、下記のとおり報告がなされた。

- 1) 会員数(2024年1月1日現在)：名誉会員：33名、代議員：233名、普通会员：2,394名 (合計：2,660名) ※普通会员のうち、2023年度入会学生会員：100名
- 2) 年会費納入状況(2024年1月30日現在)：2023年度会費の納入義務のある会員 2,560名、2023年度までの会費納入完了者 2,160名(84.4%)、2年以上の滞納者 292名
- 3) 疫学会通信(2023年12月31日現在)：2023年発行回数：51回

10. 第35回学術総会会長の安田誠史会長より、挨拶があった。

11. 玉腰暁子理事長より挨拶があり、閉会となった。

以上

一般社団法人 日本疫学会

議長 代表理事 玉腰 暁子

議事録署名人 有馬 久富

同 村上 義孝